

# 石川県環境総合計画改定のポイント

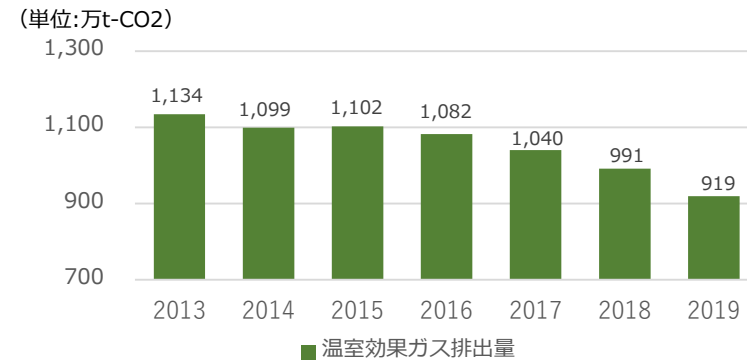
## 地球環境の保全

### 1 背景

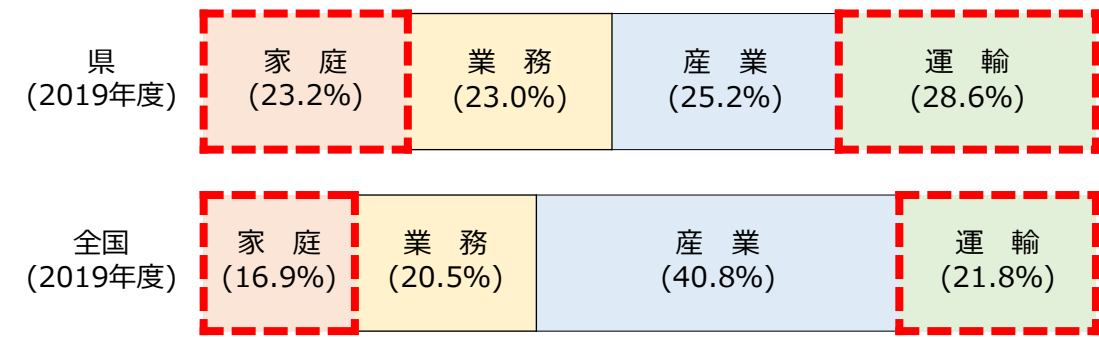
- 国が「2050年カーボンニュートラル」を表明
  - 改正地球温暖化対策推進法が成立  
⇒パリ協定の目標や「2050年カーボンニュートラル宣言」を踏まえた基本理念を新設
  - 国が地球温暖化対策計画を改定  
⇒2030年度温室効果ガス削減目標を引き上げ
- |     | 全体   | 家庭   | 業務   | 産業   | 運輸   |
|-----|------|------|------|------|------|
| 新目標 | ▲46% | ▲66% | ▲51% | ▲38% | ▲35% |
| 旧目標 | ▲26% | ▲39% | ▲40% | ▲7%  | ▲27% |

### 2 石川県の状況

2019年度の温室効果ガス排出量は▲19%、全国(▲13%)を上回る(2013年度比)



家庭部門と運輸部門の排出割合が全国より高い



### 3 目指すべき環境の姿

**長期目標** 2050年までに県内の温室効果ガス排出量の実質ゼロ (カーボンニュートラル) を目指す

※令和4年9月1日、知事が「2050年カーボンニュートラル」を目指すことを宣言

**中期目標** 2030年度の温室効果ガス排出量を▲50% (2013年度比)

2030年度温室効果ガス削減目標 (単位:万t-CO2)

	①2013年 (基準年)	②2030年 (目標値)	①/②
家庭	263	88	▲66%
業務	270	132	▲51%
産業	229	143	▲38%
運輸	247	161	▲35%
その他	125	89	▲29%
吸収	-	▲43	-
合計	1,134	570	▲50%

※各部門において国の目標達成に貢献していくため、国の部門別削減率を踏まえて算出

### 4 目標の達成に向けた新たな取り組み

家庭部門や運輸部門において、本県の特徴を踏まえた取り組みが不可欠

#### 家庭部門

- <課題>
- ・日照時間が短いイメージが先行し、住宅への太陽光発電の設置率が低い  
⇒年間日照時間 全国平均1,990時間、石川1,896時間(東京と同水準)  
⇒太陽光発電設置率 全国平均4.1%、石川2.7%
  - ・住宅面積が広く、寒冷地で高い断熱性能が必要、建設コストが他地域より高む  
➡ ZEH普及率は全国平均を大きく下回る  
⇒ 全国平均24% 石川14%(43位)
- <対策>
- ①省エネ・創エネの理解促進 (ゼロエネ住宅アドバイザーの育成、いしかわエコハウスの機能強化)
  - ②ZEH導入支援制度の創設 (新築(ZEH, Nearly ZEH等)、リフォーム(窓・ドア))  
この他、脱炭素型ライフスタイルの定着に向けた気運醸成 など

#### 運輸部門

- <課題>
- ・世帯あたりの自家用車保有台数が全国に比べて多い  
⇒ 世帯あたりの自家用車保有台数 全国1.0台、石川1.5台
- <対策>
- ①環境に配慮した自動車の購入支援制度の創設  
電気自動車、プラグインハイブリッド自動車、燃料電池自動車
  - ②水素ステーションの整備
- この他、カーボンニュートラルレポートの形成 など

#### 県庁自らの温室効果ガス排出削減

2030年度削減目標 ▲60% (国の目標:▲50%)

- 太陽光発電: 設置可能な県有施設の50%以上に設置
- LED照明: 100%導入
- 公用車: 環境配慮型の車両を導入 (代替可能な環境配慮車がない場合等を除く)
- 新築建築物: 新築建築物の平均でZEB Ready相当可能な限り再エネを導入
- 電力調達: 購入電力の60%以上を再エネ電力で調達 など

#### 推進体制

県、市町、関係団体等で構成する「いしかわカーボンニュートラル県民推進会議」を設立し、現状や進むべき方向を共有し、具体的実践につなげていく

ふるさと石川の環境を守り育てる条例の一部改正案 ※9月議会に提出(次の理念を追記)

#### 地球環境の保全

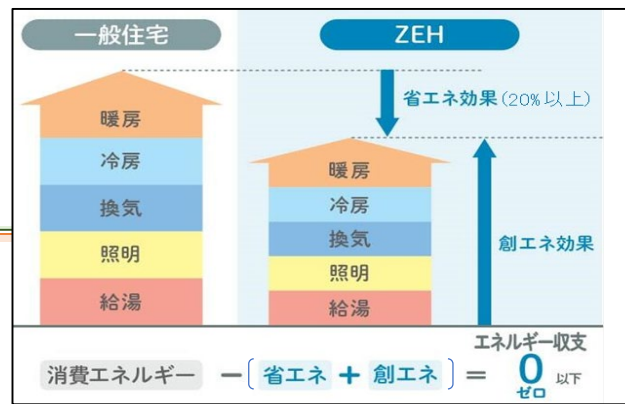
地球温暖化対策は、県民並びに県、国、市町、事業者及び民間団体等が密接に連携しながら、2050年までのカーボンニュートラルの実現を目指して行われなければならない

#### 自然と人との共生

県、市町、県民、事業者及び民間団体は、密接に連携しながら、トキ等の希少な野生動植物が生息し、又は生育していた自然環境を再生し、及び保全し、将来の県民に継承するよう努めるものとする

## 自然と人との共生

- <背景> 令和4年8月、能登地域がトキ放鳥候補地に選定された旨公表
- <課題> トキが野生下で生息していた自然環境を取り戻し、次の世代に継承する必要
- <対策> ①トキの餌場などの生息環境整備や観察マナーの啓発などの社会環境整備の推進  
②トキなどの希少動植物の調査等に携わる専門人材の育成・確保



\*ZEH(ゼッチ)とは、net Zero Energy Houseの略称で、基準一次エネルギー消費量から20%以上の省エネルギーを図ったうえで、太陽光発電等を導入することにより、年間の一次エネルギー消費量の収支をゼロとすることを旨とした住宅